

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		令和 7 年度第 3 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)		小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時		令和 7 年 7 月 3 0 日 (水) 1 4 時～1 6 時 3 0 分		
開 催 場 所		小金井市野川クリーンセンター 研修室		
出席者	委 員	<出席者： 1 1 名> 渡辺会長・岡山副会長・岸野委員・中村委員・橋爪委員・林委員・平川委員・多田委員・清家委員・長友委員・石原委員 <欠席者： 4 名> 溝入委員・光明委員・保谷委員・井上委員		
	事 務 局	今井ごみ対策課長・立崎減量推進係長・竹内清掃係長・高橋施設係長・川端主任・千野主事		
	計 画 策 定 支 援 受 託 者	パシフィックコンサルタンツ株式会社 米田管理技術者、尾形担当技術者、野末担当、立野担当		
傍聴者の可否		可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第		1 開 会 2 議 題 (1) 小金井市一般廃棄物処理基本計画等について (2) その他		
会 議 結 果		別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料		別添のとおり		
そ の 他				

渡辺会長	これより令和 7 年度第 3 回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 井上委員・光明委員・保谷委員・溝入委員が欠席。
立崎減量推進係長	(配付資料確認)
渡辺会長	(前回の会議録について確認) 特に修正意見はないようなので、市による公開手続きに移る。
策定支援受託者	(小金井市一般廃棄物処理基本計画 施策体系 (案)、各取組についての名称変更及び重点/強化/充実の位置づけ、目標値 (案) の説明)
橋爪委員	審議会開催前日の夕方に、事前質問事項に係る回答一覧が来た。もっと早めにいただければ、もう少し議論ができた。事前に意見の趣旨を明確にと指示をいただいているところ、補足させていただく。 1 点目、基本方針について、P2 の「安全・安心・安定的な適正処理の推進」は先にした方がよいというのが提案。SDGs を見るとそのような順序になっていると認識するところであり、安全・安心のために 3 R をやるのだと思う。 2 点目、計画項目①から③の 3 R と、④から⑧は、目的と手段が混在していると思うが、していないとの回答をいただいた。 3 点目、3 R の時期から 5 R の時代になっていると考えていて、私としては、Refuse は Reject を使うべきであると思う。また、Repair は Recycle に入ると思うが、皆さんからのご意見をいただきたい。
渡辺会長	3 R 以前に廃棄物の受け皿を整備する必要があるというご指摘については同意見であるが、基本方針の 3 R の優先順位については、現行のままで良いという認識である。
岡山副会長	循環型社会形成推進基本法における優先順位に従うと、3 R

	の次が適正処理となっている。一般廃棄物処理基本計画自体が、循環型社会形成推進基本法の考え方に倣い作成する法定計画という位置づけであるため、ご理解いただきたい。
橋爪委員	計画項目①から③の手段として、④から⑧があるのではないかな。
渡辺会長	矛盾も不足もしていないと考える。 3 Rを個々の計画項目に分配するのは良いと思う。①から③は3 Rに焦点を当て、それ以外の計画項目は地域など対象に焦点を当てている。
橋爪委員	TPOによっても変わりうると思う。
渡辺会長	全てを①から③に入れるよりは、今の形がわかりやすいと思う。
林委員	これまで計画体系としては概ね同じような考え方を踏襲しており、計画項目自体を再構築するような議論は出ていない。分類学的にその方がわかりやすい可能性はあるが、階層が増える。 取組内容を類型化するために計画項目を設定しているため、今回大幅に変更してしまうことには違和感がある。
岡山副会長	3 Rそれぞれに普及啓発、環境教育、協働などが存在している。その内容について細かく書かれているのが④から⑧である。もちろん、①から③の内容に含まれている内容であるが、過去の検討時に混ざり合って分かりにくくなってしまい、現在の整理にしている経緯がある。
中村委員	取組内容が市民に関するもの、事業者に関するものなのかなど、マトリクス表にて整理できれば漏れがあっても気づくのでは。
渡辺会長	マトリクス表は、入れることはできるかもしれない。

中村委員	計画項目⑤と⑥は、両方「地域」という括りにできると思うが、なぜ⑤と⑥に分かれているのか。
渡辺会長	⑤は教育、⑥は地域活動に焦点を当てていると思う。
渡辺会長	「R」は色々なものが言われているが、細くなるとどこに入れるべきか、分からなくなる。最低限この3つでよいのではないか。RejectはReduceに含まれるのはわかると思う。私はそこまで細かく分けなくてもいいと思う。
岡山副会長	プラ新法で新しく出てきた理念である「+Renewable」は実はReduceと同じ。バイオプラや紙製容器によって石油資源利用が削減されるという意味。 会長の言う通りすべて3Rに収まる。
平川委員	プラスチック容器包装と製品プラスチックが別品目で回収している自治体もあると思うが、なぜか。行き先が違うのか。
岡山副会長	新しく法律ができて、製品プラスチックもリサイクルしようとなった。プラスチック容器包装と分けているか、一括で収集するかなど、収集運搬、処理の方法は、自治体によって違う。
渡辺会長	製品プラスチックも容器包装プラスチックも素材としては同じであり、同じようにリサイクルされているが、費用負担や責任の所在の観点等から分けて回収している自治体もあるのではないか。
中村委員	教育から始まるのはいいが、それを受けてごみ削減に取り組むたいと思った際の受け皿（各種回収やリサイクルのパスなど）はあるのか。また、ごみの種類によって、どの「R」に注力すべきなのかを検討する必要があると思う。取組内容が、取組対象（市民に関するものなのか事業者に関するものなのか等）、3R（Reduce, Reuse, Recycle）、ごみのカテゴリー（可燃ごみ、プラスチックごみ等）、フェーズ（啓蒙・教育、分別、廃棄・回収、最終処理／資源化）などを軸に、マトリクス表にて整理できれ

	ば漏れがあっても気づくのでは。また、その結果を、費用対効果や実現可能性、重要性などの観点でフィルタリングして、施策体系としてはどうか。結果だけ見ると、検討の経緯が分からない。
石原委員	基本計画に技術的な内容や検討した内容を盛り込むと、内容として膨大になってしまうと思う。
林委員	過去の基本計画策定時含め、これまで検討してきた結果なので、追加提案があれば体系の中に組み込んでいただければよいと思う。ゼロから作るのであれば、中村委員のおっしゃるとおりと思うが、マトリクスも過去にやっている。
清家委員	市民として減らせるものは減らすことが重要である。最近は不用品引取りのチラシが多く入ってくる。
林委員	取組内容の名称からマイバッグをあえて外す必要があるのか。忘れないための注意喚起としては残してよいと考えている。 重点・強化・充実の位置づけは以前より整理されてきたが、重点や強化については、具体的に何をやるのかを、次の段階で具体化していく必要がある。 自主回収と店頭回収の差がよく読めない。店頭回収も販売店による回収なので、市民が読んだ時のわかりやすさを考える必要がある。
岡山副会長	店頭にあるものは容器包装であるトレイやペットボトルなどに限られてきたが、プラスチックについても、プラ新法により拡大の動きがある。その他、法制化の最中ではあるが、家電量販店によるリチウムイオン電池の回収など、企業による自主的な回収のことを指していると読んでいる。
渡辺会長	自主回収もどちらにしても店頭での回収になるわけなので、表現としては店頭回収等でもいいと思う。
中村委員	回収している店舗に対して、優良店等として消費者にその店

	舗が活用されるように HP 等に掲載はあるのか。
今井ごみ対策課長	リサイクル推進協力店として、市のHPや広報等で周知させていただいている。
岡山副会長	自主回収という表現に違和感があるとしても、分けておきたいところなので、了解をいただきたい。 マイバッグについては残しておいた方が良いと考える。マイボトル、マイはしを含め、順番を変更するという手はあるかもしれない。
渡辺会長	マイバッグについては、行政がこれ以上何もできない事情もあるのかと思ったが、確かに市民が慣れてしまっている可能性はある。
多田委員	公民館とかで回収しているのは拠点回収か。
岡山副会長	拠点回収である。
今井ごみ対策課長	拠点回収は、計画項目③、取組内容（１）に含まれる。
林委員	今後詰めるべきは、くつ・かばん・ベルトの拠点回収などの利用しやすさの向上のところと考える。利用しやすさ向上の部分が引き続き「強化」になっているが、今後、具体的に検討してほしい。これは以前から取り組むとされているが、強化されていると感じるところがないため、具体策を検討のうえ、今後改善していただきたい。 基本計画の中で具体的なことを記載してほしいというわけではないが、どこかで拾わないと、絵に描いた餅となる。
渡辺会長	個別の具体的な施策を基本計画に書かれる予定か。
今井ごみ対策課長	基本計画に具体的な内容については記載する予定はない。10月以降に諮問する予定であるが、一般廃棄物処理計画にて具体的な施策を示していく方向で考えている。

石原委員	小学校での夏休み生ごみリサイクル事業がなくなって残念であるが、その後のモデル事業の状況はどうか。
今井ごみ対策課長	生ごみ資源化モデル事業について、戸別回収は 81 世帯から、拠点回収は 2 か所における週 1 回の回収を行っており、戸別・拠点を合わせて 1 回あたり 120kg から 130kg の生ごみが集まっている。 参加者に対してアンケートを実施している段階で、否定的な声は届いていない。
中村委員	週 1 回の回収だと夏場は家で保管しておくのが大変。乾燥させたものを持っていったら、受け付けてもらえず、利用するのをやめてしまった。 利用者に対してアンケートを実施しているとのことだが、それだとその制度を使っている人の意見しかわからない。その制度を普及させるには、その制度を利用していない人に、なぜ利用しないのか（利用しにくいのか）意見を聞くのも重要ではないか。
林委員	夏場はバケツに大きな保冷剤を入れて保管したりしている。冷蔵庫に保管している家庭もあると聞いている。そういうノウハウも必要になってくるかもしれないが、できる家庭とそうでない家庭があると思う。
岡山副会長	「地域」という表現がわかりづらいので、⑥は市民・事業者（または市民や事業者）との協働による 3 R の推進としたほうが分かりやすいのではないか。
中村委員	特定のごみの種類に対しての狙いはあるのか。削減効果が見込めそうなものに対しての目標値設定はあるのか。
今井ごみ対策課長	施策体系における重点項目が削減対象と考えている。 食品ロスに関しては、法律ができたということもあるが、本市の組成調査結果からも、発生抑制に取り組むことが効果的であり、優先順位が高い項目であると認識しているところである。

策定支援受託者	(小金井市食品ロス削減推進計画について説明)
岡山副会長	P13 の文章は句読点を使い分かりやすくしてほしい。
策定支援受託者	修正する。
渡辺会長	目標値は総量ではなく原単位で設定した方が、人口変動の要素を排除できるし、一廃計画の目標値との整合も取れるのではと思う。 P20 施策 2－4 の食品リサイクル法への順法指導は、食品リサイクル法対象事業者（年間 100t 以上）だけではなく、それ以外の事業者にも指導してほしい。
長友委員	P16 目標値について、漠然としていて達成できる目標なのかが分かりにくい。
渡辺会長	近年どれくらいの量が出ているかを示すことができれば、この目標達成がどれくらい厳しいのかは、見せられると思う。最新の現状数値を示してはどうか。
中村委員	2000 年の 2,703t は小金井市の推計値か。
渡辺会長・岡山副会長	推計値である。
中村委員	2025 年現在の状況と目標値との乖離が分からないので、現在の数値を見せるほうが良いのではないかな。
策定支援受託者	数値としては整理しているので、現在の数値を記載することはできる。
今井ごみ対策課長	家庭系と事業系の実績値は確認しており、国と同様の総量の整理とさせていただいている。
岡山副会長	原単位で表示をすれば、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向けての数値が見えるため、原単位で見せるのでも良いの

	ではないかと思う。
今井ごみ対策課長	家庭系、事業系全体として達成したいという意図があり、総量として設定させていただいている。達成を念頭に置いた計画策定を考えたときに、総量として目標値として定めたい。
岡山副会長	現状の数値など、何も書かないと、見た人全員が同じ疑問を持ってしまうため、現状などの情報は出したほうが良いと思う。
今井ごみ対策課長	現状の情報は入れるようにしたい。
中村委員	農業生産における、規格外野菜の廃棄などの出荷前の食品ロスが削減できた場合、削減量には反映できないのか。
渡辺会長	小金井市の計画として含めることは可能ではあるが、国の食品ロスの定めでは含まれてはいない。
岡山副会長	そもそも農業における廃棄物である。農地から市場に出ない農作物は減耗と呼ばれるものもあるが、廃棄物としてカウントされていない。
中村委員	飲食店において食べきれなさそうなものを注文時点で減らしてもらいなどあるが、大学などの研究成果から、ごはん（米）の量について、標準の量を少なくして大盛・特盛を設定するのか、逆に標準の量の中ぐらいにして少なめ・多めにするかで売り上げに差が出るかなど、事業者に対してデータが提供できるなら適量提供を呼びかけやすいのでは。
岡山副会長	飲食店の食べ残しでは、ごはんが最も多い。実際、ある飲食店ではごはんの量を選べるような取組は標準の量をすくなくして行っている。
中村委員	アレルギーや苦手なものを考慮して、注文時にカスタマイズしやすい環境、文化の醸成はあってもいいと思う。

中村委員	家庭から出る食品ロスについて、高齢化すると食が細くなって食べる量が減る一方で、買い置きしたことを忘れて新たに買ってしまい賞味期限が切れたり等あるため、高齢化なども関係しているのか気になっている。
渡辺会長	最近研究もよくなされているが、世代や居住形態といった属性と食品ロス発生量の関係については、有意な相関が見いだせていない。 外食が多くなれば生ゴミも出なかったりする。小金井市の単身世帯は、出来合い物を買ってきて食べきれずに捨てるパターンが多いのではと思う。
岡山副会長	どの世帯も多様な食生活を送っており、田舎・都会で違うかや年代によって違うかなど、違いが出ない。
渡辺会長	単身で調理残渣が少ないのは傾向としてある。
石原委員	未開封と未利用は大した量じゃない。食べ残しと非可食部・調理くずが多い。厨芥類以外とは？
渡辺会長	紙くずや容器包装など、食べ物以外のことである。
岡山副会長	施策１－２がなかなか難しいのだが、大型食材を使い切るためのレシピや、すぐ腐るもののレシピがあると割とうれしい。
中村委員	内容自体は賛成であるが、もっと大勢の人を対象にしないと効果の面で見るとあまり期待できないのではないかな。
渡辺会長	ソーシャルネットワークの広い人が参加して広めてくれれば効果があるが、そうでないとなかなか広がらない。
岡山副会長	飲食店の食べ残しは、P20の小盛りの取組などを通して減らしていけるのではないかな。
林委員	小金井市ではフードドライブは社協で月に１回受入れている程度。もっと踏み込んで考える必要がある。年間どれくらいの

	量が受入れられ活用されているのか。このままだと絵に描いた餅になるので、ぜひ力を入れていただきたい。
渡辺会長	フードドライブは受入れできる食品に制限があるため、どれくらい食品ロス削減に有効であるかは疑問である。
林委員	民間で立ち上げないとなかなか進まないとは思っている。
清家委員	フードドライブの実施場所が利用しづらい場所であるので、改善をお願いしたい。
今井ごみ対策課長	場所が限られているのが現状である。集めたものをどうさばくかについては、ごみ対策課の範疇を超え、福祉分野の範疇になる。
石原委員	若い人は外食でも残す。子どもたちから啓発していかないと進まない。
今井ごみ対策課長	アレルギーのある子どももいらっしゃるため、学校での指導が難しいという事情もある。
多田委員	子どもとよく関わっているが、今の子どもたちは残している。
岡山副会長	施策２－４ではせめてリサイクルしましょうという整理をしている。
策定支援受託者	(小金井市災害廃棄物処理計画) について説明)
渡辺会長	P5 の緊急仮置場はどのような位置づけか。
策定支援受託者	戸別回収する場合、排出先は平常時にごみを排出している場所を想定しているが、生活ごみと混廃化することを避けるため現行の処理計画で命名している。片付けごみを排出する際は生活ごみと一緒に出さないように時間を制限すること等の対応が必要になる。

岡山副会長	地区集積所とはどこなのかの説明がない。
策定支援受託者	P4、7 に簡単に説明は記載している。
岸野委員	P7 の写真はどこの写真か。
策定支援受託者	過去の被災自治体で実際に開設した仮置場で受託者が撮影した写真を掲載している。
中村委員	各集積場について、運びこまれた廃棄物がきちんと分類されているかを管理する人は配置する予定か。
今井ごみ対策課長	地区集積所に関してはごみゼロ化推進員に協力いただきながら、市の職員が巡回する形で管理することを想定している。 また、一次仮置場は民間事業者に委託をすることを想定している。
岡山副会長	過去の災害では、日中は人が管理しているが、夜に投棄されることは散見された。
岸野委員	仮置場として決まっているのは、メタウォーターサステナブルパークこがねい、野川クリーンセンターのバスケットコートか。
今井ごみ対策課長	ご認識の通りである。
中村委員	ひょうなどの被害は今回災害廃棄物処理計画において定められている対応の対象となるのか。
岡山副会長	被災規模による。
中村委員	東京都は新築住宅等に太陽光パネル設置を義務化しているが、破損した太陽光パネルはどうするのか。
岡山副会長	仮置場に持ってきてもらうことなると思う。当たると発電す

立崎減量推進係長	るので、熊本地震の時は裏返して集めて倉庫に蓄積した。 次回の審議会は令和 7 年 9 月 10 日（水）14 時から、次々回の審議会は令和 7 年 10 月 8 日（水）14 時から、それぞれ野川クリーンセンターで予定をしている。詳細は改めて連絡する。 また、小金井市食品ロス削減推進計画におけるスローガンに関する募集を改めて担当者より行う予定である。
----------	---